



さ く ま よう すけ
佐久間 洋介さん

市も開催を支援している札幌コレクション2010に出品。その中で行われた、洋服のデザインの将来性を競う「ブランドオーディション」でグランプリを獲得した。現在は、企業の制服などのデザインのほか、ファッション情報誌の編集などに携わる。24歳。

フアツションは
道を切り開く力を
秘めている

「札幌コレクションへの出品が転機だった」と佐久間さんは話す。専門学校卒業後、進路が見えずフリーターに。漠然と「デザインを仕事にしたい」と考えていた。そんな中、道内最大のファッションイベント「札幌コレクション」を見て「あの場で自分のデザインを披露したい」と強く思うようになる。その後はデザインに没頭し、翌年念願の出品を果たす。「手応えはあった」。結果は会心のグランプリ受賞。努力が実った瞬間だった。

アイデアを形にする秘訣は、「型にはまらず、今、好きなものを落とし込むこと」。未来的なものが好きな時は光沢のある生地、手の込んだものが好きな時は刺しゅうを使う、という具合だ。

東京を中心に動くファッション業界。佐久間さんは、道外に目を向ける若者へ「札幌でデザインし、発信することも十分にできる」とメッセージを送る。その言葉には、アイデアの力を信じて道を切り開いた、佐久間さんの思いが込められていた。



佐久間さんが生み出したもの

札幌コレクションに
出品した洋服

テーマは「気だるい女の子」。肩の周りなどに細身で女性的なラインを出しつつ、腰周りなどを緩めに仕上げることで、男性向けの服のような“やぼったさ”が出るよう工夫している。



(左)「男性向けは、つい自分が着たいものを作ってしまうため、あえて女性向けの服のみデザインしている」と佐久間さん。

(中) 佐久間さんのデザイン画。1日1枚は必ず描くのだとか。

(右) 佐久間さんが編集に携わる情報誌「SCRIPT(スクリプト)」。市内の百貨店などで無料配布している。